

第71回国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生の主張コンクール東京都大会 銀賞

東京都立八王子東高等学校 2年

森木 まなり

課題①

これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界の姿とはどんなものとするか。

そのために私たちが優先して取り組むべき課題とは何か。

副題

なし

私が考える、これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界は、すべての人が必要な時に食事を楽しめる世界です。

私は、食べ物には3つのパワーがあると思います。まず、生きる必要不可欠なエネルギーだということ。次に人を元気づけたり笑顔にしたりすること。最後に地域を元気づけることです。これらのパワーを世界中で感じることができれば人々の体と心の健康を守り、強く生きることができるとは違いないと思います。

私は、日々の食事にどれだけ助けられてきたか、数えられません。部活動や生徒会活動で失敗したり叱られたりした時にいつも心を癒したのは、家族との食事でした。おいしいものを食べると元気が出て、明日がんばる活力になっています。

先進国では大量生産、大量消費社会を極めました。それがゆえに食べ物大切さをきちんと理解しない人がたくさんいるため、食品ロスは増えています。小学生の時に社会の授業で大量に捨てられる食べ物の映像を見ました。それに対して環境やほかの国に影響を与える良くないことを平気でやっていることに対していらだちを感じました。世界では十人に一人、八億人近い人々が飢餓に苦しんでいると国連 WFP は伝えています。一方世界中の人が食べるだけの食料は生産されていると言われています。それなのに食べないなら廃棄すればいいと安易に考える私たちは、このままでよいのでしょうか。

私は、これから生まれてくる未来世代にとってあるべき世界は、すべての人が必要な時に食事を楽しめる世界だと考えます。そのための私の考えや提案を挙げたいと思います。

第一に、先進国の食品ロスの問題を解決しなければなりません。そのためには各国の企業が食品ロスを作らないことで、各企業のパフォーマンスが上がることを示しましょう。食品ロスの削減は労働力の節約、廃棄にかかるお金の削減などプラスの影響を与えられます。国同士が前を向いて課題と向き合うことが大切です。

企業努力だけでなく、個人でも協力ができます。私は、食べられなくなるだけのものを買わない、買ったものは残さず食べる、捨ててしまうところも調理することでなるべく食べるなどをしています。

事業系食品ロスだけでなく家庭系食品ロスも、食料確保の不公平に繋がっています。だから個人による協力が必要です。

次に食べ物を世界中に分配するべきです。食べ物がなければ生きることすらもまともにできず、それだけで一日が終わってしまいます。今、様々な機関や NGO がフードバンクという取り組みを行っています。フードバンクでは食べられるはずなのに食べ物の包装ミスや規格外商品を支援が必要な国に送る取り組みです。そもそもそのような食べ物を出さないことが大切ですが、食品ロスを減らしたり人を助けたりすることにつながります。

最後にすべての人々が食事を楽しむことができる心と環境の整備が必要です。例えば日本には家に食卓があり、それを家族で囲んで食事をとる光景が思い浮かびます。このように食事の時に使う机やいすを普及させるなど環境を整えることで食事をとる楽しさを味わえます。加えて、食事が楽しみになる前向きな心持ちを人々に持ってもらうべきです。なぜなら、私はもし大変なことがあっても食べることは心を癒してくれると、知っているからです。

ここまで述べてきたことを実現してすぐに飢餓をゼロにすることは難しいです。まずは自らできる行動、行動している企業や団体の支援が必要です。力を合わせて課題解決に向かいましょう。